

Message

私たちの未来



のま ずばる
御船中3年 野間 昂 さん

**新しい地域のつながり
すべての人が同じ目線で
住みよい場所を
「郷土愛」を育てる**

この町は、たくさんの人の力や支えで、5年間で大きな成果を成し遂げることができました。「御船町が生まれ変わる」「いつか何がはじまるのだろう」都市再生整備事業の計画当初、小学生だった私は家族と会話の中で、胸を膨らませていました。住みやすい町に变身していくのだろうか――。

「新道ができて、自転車での登下校がよくなった」「お店が増えて便利になったね」と、学校や友達、家族と会話の中で、町の変化について話ができるようになりました。

しかし、暮らしやすい町になったとしても、そこに住む人の心も成長していかなないと街づくりをした意味がない、形だけの街づくりになって

しまうのではないかと考えます。

この社会には、御船川清掃など自分の時間を割いてまで、地域のために活動してくれる人がいます。この事業にも、たくさんのお金や、人の力が費やされています。

この事業を通して、新しい地域のつながりをつくり、すべての人が同じ目線で共に住みよい場所をつくるために、努力する心、古里を愛する心「郷土愛」を育てることが重要になってくると思います。そのためには、この町に住む一人一人が地域の一員であることを自覚しなければいけません。

新しく生まれ変わった町で、これからもみんなが幸せに暮らすために私ができることは、文武両道に励み、

将来この御船町に恩返しができる人になることだと思っています。

そのために今、中学生として私にできることは、勉学や運動、さまざまなことにチャレンジし、自分の夢や目標に向かって努力することです。この町からたくさんの恩恵を受けながら心身ともに成長し、将来、御船町を担っていく人になりたいです。そのためには、今後は若者が地元で働ける場所を増やしたり、安心して子育てができる環境をつくってほしいと思います。

「環境が人をつくる」。たくさんの人の努力や支えがあることを感謝し、自分の夢や目標に向かって、これからもたくさん笑顔が生まれる町にしていきたいです。

私が幼稚園の頃は、のどかな田園風景ばかりで何にもない町でした。今では、立派な道路網が整備され、どこへ行くにも便利な町になりました。当然大型店も御船町に進出してきて、わざわざ熊本市内

に行かなくてもよくなりました。そして、なんといっても目玉は新設された恐竜博物館です。多くの人が全国から訪れていると聞きうれしく思います。

今後、さらにこの町を大きく発展

させるには、若い人の力が必要になると思います。私は、御船町に住む若者の代表として、この御船町がこうあって欲しい、こうなって欲しいという夢を語ります。

先日、熊本日日新聞の「読者のひ



ます だ たく み
御船高3年 増田 拓海 さん

ろば」に、御船町の女性の方が投稿された文を読みました。見出しには「子どもが安全に育つ御船町に」とあり、内容は、御船町合併60周年の記念式典に参加したおり、七滝中央小6年生によるプレゼンテーションや太鼓の演技に心をうたれたというものでした。私は共感すると同時に、子どもと対極に位置するお年寄りのことも、頭に浮かんできました。「子どもとお年寄りが安全に暮らせる町に」というものです。それは

保育園や幼稚園と、老人ホームを組み合わせた大型施設をつくるというものです。老後の一人暮らしには、どうしても寂しさがついてまわります。生命を与えられたばかりの子どもたちと触れ合うことで、お年寄りの生きる意欲もわいてくるのではないのでしょうか。乳幼児たちも経験豊かな、おじいちゃん、おばあちゃんからいろんな知恵を授かることができると思います。育児ノイローゼのお母さんもうなくなり、幼児虐待も

当然なくなります。町には、将来のまちづくりのための土地はたくさんあると思います。ぜひ、実現して欲しいと思います。

また、その施設の近くには四季折々に咲く花畑や広場などを作っていただいたら、より多くの人の憩いの場になるのではないのでしょうか。

私は今、公務員を目指してがんばっています。いつの日か、御船町に育ててもらった恩返しができたらと思っています。

**町に若い人の力を
子どもとお年寄りが
安全に幸せに暮らせる町
いつの日か町に恩返し**



かわ ち ゆう た ろ う
県立大3年 河地 雄太郎 さん

**熊本と世界の架け橋へ
意思の強さと愛国心
新時代へつながるテーマ
行政と住民の意識向上**

自分には、「熊本と世界の架け橋となる」という目標があります。それは、御船地区都市再生整備計画が始まった御船中学時代に、英語暗証大会に出場していた頃から夢でした。

自分にとって一番の刺激になったのは昨年9月に行ったイギリス短期留学です。英語を学ぶ傍ら、イギリスの伝統ある名所を見ることができたことや、本場の英語に囲まれて生活できたことは、とても貴重な経験になりました。彼らとの会話で一番影響を受けたことは、「意思の強さ」と「郷土愛」です。

彼ら自身が、大学で専攻科目を勉強する意味、将来目指しているもの、

どのように自分の国に発展をもたらすか、とても明確で饒舌に語っていました。同じ大学生として、とても考えさせられました。自分が知らない世界を経験できたことは夢への強い刺激にもなり、忘れられない経験となりました。

最後に「Think globally Act locally」という言葉があります。日本語で「国際的な広い視野で物事を考え、それを地域にあてはめ実行していく」という意味の言葉です。

中学の頃から、英語や海外に興味をもっている自分と大学で熊本の地域活性化について学んでいる自分をつなぐ、まちづくりの整備が完了し、これからさらに発展していく御船町

の将来、新時代へつながるテーマのような言葉だと思っています。

都市再生整備計画の一環として、大規模なインフラの整備を行い、新しい道路や公園などができ、町としての充実性も大いに向上しました。

これからは、住民も行政だけに任せるだけでなく、環境が整備されたこの御船町で行政とともに住民の意識も向上することが、これからのさらなる御船町の発展へとつながると信じています。

自分が大学で学んでいることが将来の目標である「世界との架け橋」に、今後の御船町の発展に役立てることができるよう、大学での勉強を頑張っていきたいです。